

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101669		
法人名	社会福祉法人 凌雲堂		
事業所名	認知症高齢者グループホーム悠悠		
所在地	宮崎県宮崎市大字跡江2366番地		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570101669-00&PrefCd=45&Version=0022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、利用者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように努め、住み慣れた地域で安心して満たされた暮らしを続けられ、本人の自己実現を支援する為、認知症ケアの充実、地域ケアの質の向上を図っている。利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で利用者の望む生活が実現できるよう配慮し、一人ひとりの利用者寄り添い、個別性に応じた支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設されたホームで、理念は「笑顔」をキーワードに、利用者職員がゆったりとした雰囲気の中で過ごしている。法人として体制を整えており、人材育成に力を注ぎ、管理者も必要な場面で職員を指導し、ケアの向上に取り組んでいる。地域の行事へ参加したり、文化祭に作品を出展するなど、利用者が地域の一員として交流できるよう支援している。運営推進会議は家族全員が構成員となり、出席率も高く、家族の要望や意見を運営に反映している。利用者一人ひとりの得意な分野、趣味(楽器を弾く、歌う、踊るなど)を尊重し、その人らしい暮らしを継続するよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員は理解し、利用者、職員とともに毎日、笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。	「利用者の笑顔」が理念の中心になっており、管理者は理念の実践について指導し、職員も取り組んでいる。日常生活の中で利用者と職員が互いに笑顔で過ごすための努力を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に地域のお店に買い物に出掛けたり、地域のサロン、文化祭、ふれあい会食会等に参加し地域との交流を図っている。	利用者が地域の多彩な行事に参加し、文化祭には「貼り絵」を出展するなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。ボランティアや小学生の来訪もあり、地域の住民の協力も得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れをしている。又、地域の自治会役員の訪問時に、認知症の人の理解について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の多職種の構成員により会議を開催し、交流を図っている。現在の取り組みや利用者の現状を報告し、質問・要望等を受け、意見交換を行いサービスの向上に努めている。	各家族全員が構成員になっており、出席率も高く、誕生会を兼ねるなど、充実した会議になるように努めている。体重管理に関する意見に対して、主食の量やおやつの見直しをするなど、サービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包括支援センターの職員や地域センターの参加があり、連携を図っている。	市担当者に介護計画について相談したり、法人としてアドバイスをもらっている。関係者が参加するブロック研修会に市担当者も出席しており、積極的に参加して連携をとるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、禁止項目の具体的な行為の理解はしており、緊急やむを得ない場合以外は拘束をしない方向でケアに取り組んでいる。	職員会で身体拘束について研修を行い、「利用者の言動は何が原因なのか」、ケース検討を重ねている。新人職員には管理者が身体拘束をしないケアの実践について指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しては、外部研修に参加し管理者、職員は制度について学び、理解を深め、ホーム内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会の参加や参考資料にて学び理解できている。家族や利用者から説明の申し出があった場合は即座に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を行い、解約(退所)時には理解・納得が得られるように十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等において、家族からの意見・要望が出るように配慮し、意見等の内容については、話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。	利用者や家族等の意見、要望を聞く機会を大切にしている。家族から利用者の歩行に関する要望があり、室内や室外での歩行訓練を実践するなど、ケアサービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、運営に関する方針について話し合う場を設け、職員から意見や提案を聞き事業に反映している。	月1回の職員会には法人の施設長や所長も出席し、全職員が意見を出す時間を設けている。排せつ支援に関する意見等は、具体的な対策を講じて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人が向上心を持って働けるよう、職場環境を整備するとともに、人事考課制度により、職員の意欲向上・資質向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己研鑽の為に、法人外研修に参加し、研修内容については、介護職員会や朝の申し送り等での報告により、内容の共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの利用者との交流会で、相互訪問の活動を通して、職員のサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用にあたっては、事前に面会の場を設け、利用者の不安なこと、困っていることに耳を傾け、納得した上での利用に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なことの要望等の相談に乗り、家族が十分に納得した上で、安心できる利用に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって必要なサービスは何かを見極め支援している。又、相談内容については、柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を保ち、職員は利用者と共に支え合い、一緒に寄り添いながら生活をしている。また、行事等の参加を促して、一緒に過ごす時間を設ける等して、情報の共有化を図り、本人を支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等で情報交換を密にし、安心して頂けるように、本人と家族の絆を大切にし、利用者に寄り添いながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会や電話、手紙等を通して、馴染みの人との関係が継続できている。	入居前に利用していた通所介護施設に行き友達に会ったり、通院の帰りに自宅に寄るなど、家族の協力を得ながら、なじみの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士できること、できないこと、好きなこと、嫌いなことをお互い助け合いながら生活しており、利用者の関係がうまくいくよう職員は中に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を家族から聞いたり、入所先へ面会に行ったり状況確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾けることで、利用者が何を望んでいるのか、思いを把握できるように努めている。	利用者との日常会話の中で、希望や意向の把握に努めている。会話が困難なケースでは本人に寄り添い、観察しながらテレビ番組の好み等の把握に努めている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を活用して、本人の思いを引き出す工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族からの情報収集で、生活歴等を把握しその人らしい暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者の現状把握に努め、できる事、できない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、職員との話し合いにより実行可能なケアプランを作成している。	本人・家族の要望、担当者の意見、管理者の意見をそれぞれ出し合い、関係者と話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを月に2回実施し、現状に即したケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ケースに日々の状況を記録したり、介護計画の評価を記録することにより、定期的な介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出した機会や買い物時に、自宅近くまでドライブして帰ったり、利用者に対して柔軟な対応をしている。		

宮崎県宮崎市 認知症高齢者グループホーム悠悠

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が生活していた地域の行事や、地域高齢者との交流を通して、安心して生活が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、家族同行の受診となっているが、家族が無理な場合は、職員が付き添い受診している。事業所の協力医への受診、かかりつけ医の往診等、医療機関との関係を密にしている。	受診には家族が同行することを基本としており、困難な場合は職員が同行している。利用者はそれぞれのかかりつけ医に継続して受診している。内科医、精神科医の定期的往診、歯科医の訪問診療を随時行い、受診の環境を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の施設の看護師に健康管理や医療面で相談し、助言を貰いながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医療機関と情報交換を行い、家族を含めて随時情報交換を行うことで、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当初、または重度化した場合の今後の方針については、本人・家族を交えて話し合う場を設け対策を講じている。終末期の在り方については本人や家族、かかりつけ医、協力医と相談しながら対応している。	入居契約時に重度化や終末期の対応について本人・家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医、協力医と相談しながら支援している。説明や話し合いをし、対策を講じているが、指針として文書化されていない。	現在、ホームとして契約時に説明している内容、利用者の状況変化にどう対応していくのかなど、文書化して指針を作成することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員より救急蘇生法の指導を受けたり、緊急対応や応急措置についての勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を隣接施設の協力を得て、年2回実施している。夜間想定訓練も行い、職員が慌てず避難誘導できるよう訓練を行っている。	避難訓練は隣接施設の職員の参加を得て実施しており、災害時の協力体制を構築している。業者のアドバイスも得ながら、災害対策を行っている。備蓄は1週間分整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者のプライバシーに配慮した言葉かけには十分に留意し、利用者一人ひとりの尊厳に気を配っている。	管理者は利用者と職員の会話について、馴れ合いの中での言葉かけには配慮するよう指導している。排せつの介助では一步下がって対応するなど、人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が決定できるような場面づくりをし、納得を得た上での支援をしている。また、職員や関係者を交えての説明で、本人が理解・納得いく対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた個別性の対応に配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出帳美容でカットをしておしゃれを楽しみ常に身だしなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員と一緒に食器拭きやお膳拭きを行っている。配膳、下膳も利用者が自主的に取り組んでいる姿が見られている。	朝食の食材の買い物、配膳、下膳などを利用者と共に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しい食事になるよう支援している。手作りおやつを提供にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が食べられる量を提供し、利用者が食べやすい大きさにし対応している。一日1400カロリー、水分を1500cc摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、食後の歯磨きの声掛け介助を行い、口腔ケアに取り組んでいる。また、週2回義歯の洗浄を行っている。		

宮崎県宮崎市 認知症高齢者グループホーム悠悠

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に繋がるように支援している。	各居室にトイレを設置しており、夜間もトイレでの排せつができるよう支援している。トイレの中は分かりやすい表示がなされ、トイレトペーパーを1回分ずつ小分けにするなど、トイレの中の整備に工夫をして排せつの自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、プルーンやお茶ゼリーを提供し、繊維質の多い野菜を献立に多く取り入れている。また、排便チェック表に記録し、排便の様子を職員全員が把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する利用者に対しては、時間をずらしたり、言葉掛けを工夫したり、タイミングを見て誘導を試みている。	ホームの浴室は温泉を利用しており、利用者が入浴をゆっくり楽しむことができるよう職員もゆっくり対応している。入浴を拒む利用者には、着替えの日であるなど言葉かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れ、夜はゆっくり眠れるような支援をしたり、寝付けない利用者には話し相手やお茶を提供し、安心して眠れるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬の働きや副作用を職員は理解しており、服薬の管理をしている。また、薬の用量や処方について適切であるか状況を病院受診時、家族に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味を活かして、交流の場で披露してもらったり、日々の生活の中で楽しみの一つとして役割を見出し、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足、買い物、ドライブ、ふれあい会食会やサロン等の地域の行事に参加し、外出の機会を設け支援している。	地域の行事への参加、ホーム独自の行事、日常の買い物などの予定を組み、外出の機会を積極的に設けて外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かり、買い物時にお金を持って行き、好きなお菓子を買ったり、好みの洋服を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり、手紙の代読や手紙を出したりする等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑には季節の野菜や花を植え、成長を楽しみ季節感が感じられるよう工夫し、生活感を味わう事ができるようにしている。	食堂兼居間にはソファを置き、利用者がゆったり過ごすことができる空間作りをしている。エレベーターが身近にあり、利用者が弾く時には音量を調整して適切な環境を保つように配慮している。室内から見える庭には野菜や花を植えて、季節の移り変わりを感じる場所作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にはソファが設置され、利用者同士が思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や本等が置かれ、利用者が安心して過ごせるよう支援している。	利用者が今まで大切にしてきた人形や絵本を持ち込んでもらい、趣味や楽しみが継続できる居室になるよう支援している。寝具も持ち込みにして、落ち着いて居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのアセスメントをしっかり行い、「できること」「分かること」を把握して安全に生活できるように支援している。		